

夏季史跡見学会の見どころ

1 日目

～陸奥岩手の輩出した偉人とその足跡をたどる～

○原敬記念館

第 1 日目は、盛岡藩士の家に生まれ、最初に本格的政党内閣を実現し、平民宰相と呼ばれた原敬の生家に隣接する原敬記念館に立ち寄ります。政界の貴重な資料や原敬日記、遭難時の衣服、遺品、遺墨等を展示しています。また当日は企画展として生家公開や、原敬 13 歳の時に経験した戊辰戦争が原にどのような影響を与えたのかなど貴重な史料展示をご覧いただける予定です。

○旧岩手銀行本店

赤レンガ作りの岩手銀行本館は東京駅の駅舎を設計した辰野・葛西建築設計事務所によるもので、辰野金吾が設計した建築としては東北地方に唯一残る作品として知られています。

○もりおか啄木・賢治青春館（旧第九十銀行本店）

第九十銀行は地元資本によって明治 11（1878）年に誕生した銀行で、出資者の多くは旧南部藩士でした。現在も残る旧本館は旧岩手銀行本館の竣工 5 か月前に完成したものでロマネスクリバイバル様式を始めとした当時の欧州の流行を取り入れています。設計者の横濱勉は啄木や賢治と同じ森岡中学出身です。

○国立天文台 VLBI 観測所（旧緯度観測所）

VLBI とは超長基線電波干渉計のことで、現在日本国内の 4 カ所（岩手県奥州市、鹿児島県薩摩川内市、東京都小笠原村、沖縄県石垣市）に設置した口径 20 メートルの電波望遠鏡の観測データを合成して、日本列島規模の巨大な観測網を形成し、天の川銀河の天体位置を高精度で計測する観測を進めています。この最新の宇宙観測施設に隣接する奥州宇宙遊学館の建築は旧緯度観測所のものです。新旧、日本における地学・宇宙研究の歴史を見ることが出来ます。

○後藤新平記念館

仙台藩水沢城下に生まれた後藤新平は植民地統治下の台湾民政局長、初代満鉄総裁、鉄道院総裁、逓信省、内相、外相、東京市長などを歴任、関東大震災後の帝都復興事業の指揮を行いました。その業績を顕彰する記念館では愛用品の他、満鉄経営の意見書、台湾植民地経営に当たった阿片対策史料を収蔵しています。

○高野長英記念館

水沢に生まれた高野長英はシーボルトに蘭学をまなんで、渡辺崋山らと尚歯会にくわりました。天保 9 年「夢物語」をあらわし幕政を批判、翌年蛮社の獄で投獄された長英は、火災の際に脱獄し、伊達宗城などの庇護を受けるものの嘉永 3 年 10 月 30 日江戸で捕吏におそわれ自殺しました。記念館では杉田玄白が長英にあてた書状や獄中の長英が書いた直筆書状などを見ることが出来ます。なお、先の後藤新平は高野長英の遠縁に当たります。

～古代律令国家と蝦夷の攻防～

○志波城跡

坂上田村麻呂によって造営された最大級の古代城柵「志波城」跡の発掘調査成果をもとに、その遺構の真上に復元整備した歴史公園です。復元されているのは当時の志波城の一部ですが、高さ 11 メートルの外郭南門、全長 252 メートルの外郭の築地塀や櫓、政庁、官衙建物、兵舎だった竪穴建物などが整備されています。また、「志波城古代公園案内所」では、志波城や東北の古代史について理解を深めることのできる展示室があり、復元した官衙建物内の展示室ではコンピューターグラフィックで当時の姿を見ることができます。

○胆沢城跡

坂上田村麻呂が造営し、多賀城から鎮守府が移された城柵です。発掘調査によって、古代陸奥国の北半部を統治する機関であり施設であることが判明しています。現在は、発掘跡が広大な空き地のようになっていますが、北上川と胆沢川の合流地右岸の水沢段丘上、標高 50 メートル程度の平坦地に政庁や正殿跡がどのような配置で営まれていたのかを観察することができます。

2 日目

～奥州藤原氏の盛衰と浄土教文化をたどる～

○中尊寺

中尊寺は天台宗の東北大本山で創建は嘉祥 3 年（850）に円仁によるとされています。その後奥州藤原氏初代の清衡が長治 2 年（1105）から中尊寺の再建に着手し、天治元年（1124）に金色堂が竣工、基本的な伽藍が完成したのは 21 年後とされています。吾妻鏡によると中尊寺の規模は「寺塔四十余宇、禅坊三百余宇」とされ、平泉では毛越寺に次ぐ大きさでした。現在はその多くが焼失していますが、国宝建造物第 1 号である金色堂をはじめとした東北随一の平安遺構の宝庫であり、2011 年に世界遺産に登録されて整備も進みました。2 日目は金色堂をはじめとする中尊寺の文化財をじっくり見学してまいります。

○毛越寺

毛越寺は中尊寺と同じく慈覚大師円仁が開山し、藤原氏二代基衡から三代秀衡の時代に多くの伽藍が造営されました。往時には中尊寺をしのぐほどの規模と華麗さであったといわれています。建物は焼失しましたが、現在大泉が池を中心とする浄土庭園と平安時代の伽藍遺構がほぼ完全な状態で保存されており、国の特別史跡・特別名勝の二重の指定を受けています。多くの図説にも掲載されているように、毛越寺は浄土教信仰の世界観を実感させられる史跡です。

○柳之御所跡（国史跡）

柳之御所跡は平安時代末の居館跡で、『吾妻鏡』に記載されている「平泉館」に比定され、奥州藤原氏の政務の場と考えられています。継続的な発掘調査の結果、堀・園地・掘立柱建物・便所などの遺構、京都や海外との交流を示す土器や陶磁器などの遺物が多数発見されています。

○観自在王院跡

藤原基衡の妻が建設した寺院跡です。境内跡は国の特別史跡、庭園は国の名勝に指定されています。約 160×260m の南北に延びる寺域の北部に 2 つの阿弥陀堂があり、中央部に園池があったと考えられています。

○高館義経堂

高館は北上川に面した丘陵で、判官館とも呼ばれています。この一帯は奥州藤原氏初代清衡の時代から、要害地とされていました。頼朝に追われ、平泉に再び落ち延びた源義経は、藤原氏三代秀衡公の庇護のもと、この高館に居館を与えられましたが、文治 5 年（1189）閏 4 月 30 日、頼朝の圧迫に耐えかねた秀衡公の子・泰衡の急襲にあい、この地で妻子とともに自害したと伝えられています。丘の頂上には、天和 3 年（1683）、仙台藩主第四代伊達綱村公が義経を偲んで建てた義経堂があり、中には義経公の木造が安置されています。また俳人・松尾芭蕉が俳句「夏草や 兵共が 夢の跡」を詠んだ場所でもあります。

○無量光院

奥州藤原氏 3 代目の藤原秀衡が建造した寺院です。毛越寺の新院という意味で、新御堂と号しました。京都の平等院に倣って造られましたが、建物の向きや地形もすべて平等院と同じようにして、庭園は毛越寺や観自在王院とも同様の浄土庭園様です。当時、無量光院は平泉の中心部にあり、この近くに政庁である平泉館があったと史書「吾妻鏡」が伝えています。しかし、建物は焼失してしまい現在は土塁や礎石が残っているのみです。

1952 年の発掘調査で本堂や庭園の規模が判明しています。東西は約 240m、南北約 270m、面積は約 6.5ha あったと見られています。これは平等院よりも大規模、吾妻鏡の記録と合致しています。